内視鏡検査・治療での休止を考慮する薬剤一覧
(休止期間は患者個々の状態を考慮して主治医が最終的判斷すること)

薬剤分類	休薬期間の目安【休薬期間は検査日を含まずカウント】	
抗血小板薬	消化器内視鏡検査・治療(1剤)	
一般名	通常内視鏡 内視鏡的粘膜生検 出血低危険度	出血高危険度
アスピリン、アスピリン・ランソプラゾール、アスピリン・ダイアルミネート、アスピリン・ポノプラザン	休薬無し ¹⁾	休薬無し ¹⁾ (血栓塞栓症の発症リスクが低い場合は3~5日間の休薬を考慮)
バイアスピリン、バファリン、タケルダ、キャブピリン		
チクロピジン	休薬無し ¹⁾	5~7日前 ¹⁾ (血栓塞栓症の発症リスクが高い症例ではアスピリンまたはシロスタゾールへの置換を考慮)
パナルジン		
クロピドグレル	休薬無し ¹⁾	5~7日前 ¹⁾ (血栓塞栓症の発症リスクが高い症例ではアスピリンまたはシロスタゾールへの置換を考慮)
プラビックス		
クロピドグレル・アスピリン		
コンブラビン配合錠		
プラスグレル	休薬無し ¹⁾	5~7日前 ¹⁾ (血栓塞栓症の発症リスクが高い症例ではアスピリンまたはシロスタゾールへの置換を考慮)
エフィエント		
チカグレロル	休薬無し ^{3,4)}	5日前 ⁴⁾ (3日前) ³⁾
ブリリント		
シロスタゾール	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
プレタール		
イコサペント酸エチル	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
エパデール		
オメガ-3脂肪酸エチル	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
ロトリガ		
サルボグレラート	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
アンブラーグ		
ジピリダモール	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
ペルサンチン		
トラピジル	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
ロコルナル		
ペラプロスト	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
ケアロードLA、ドルナー		
リマプロストアアルファデクス	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
オパルモン、リマプロストアアルファデクス		
ジレゼブ	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
コメリアン		
イブジラスト	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
ケタス		
イフェンプロジル	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
セロクラール		
ニセルゴリン	休薬無し ¹⁾	1日前 ¹⁾
サアミオン		
セレキシパグ	休薬無し ⁵⁾	2日前 ⁵⁾
ウプトラビ		

抗凝固薬		
一般名	通常内視鏡 内視鏡的粘膜生検 出血低危険度	出血高危険度
ワルファリン		
ワーファリン	休薬無し ¹⁾ (PT-INRが通常の治療域であることを確認)	PT-INR治療域: 当日休薬(またはヘパリン置換 ^{注1)}) ¹⁾ (非弁膜症性心房細動の場合には一時的DOACへの変更も考慮)
ダビガトラン		
プラザキサ	休薬無し ¹⁾ (ピーク時回避)	当日休薬(午後治療で翌朝再開) ¹⁾ (血栓リスク高: 処置後すぐの再開または翌朝の再開までヘパリン置換考慮)
リバーロキサバン		
イグザレルト	休薬無し ¹⁾ (ピーク時回避)	当日休薬(午後治療で翌朝再開) ¹⁾ (血栓リスク高: 処置後すぐの再開または翌朝の再開までヘパリン置換考慮)
アピキサバン		
エリキュース	休薬無し ¹⁾ (ピーク時回避)	当日休薬(午後治療で翌朝再開) ¹⁾ (血栓リスク高: 処置後すぐの再開または翌朝の再開までヘパリン置換考慮)
エドキサバン		
リクシアナ	休薬無し ¹⁾ (ピーク時回避)	当日休薬(午後治療で翌朝再開) ¹⁾ (血栓リスク高: 処置後すぐの再開または翌朝の再開までヘパリン置換考慮)

注1: 血栓リスク高くワーファリンのヘパリン置換を考慮する例²⁾ (※DOACについては通常ヘパリン置換は推奨されない)
CHADS₂スコア5,6点の非弁膜症性心房細動、中等度以上の僧帽弁狭窄症の心房細動、肺血栓塞栓症発症後3~6ヶ月以内、
3ヶ月以内の脳梗塞やTIAの既往、機械弁置換術後、生体弁置換術後3ヶ月以内

参考資料

- 1) 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン2012、直接経口抗凝固薬(DOAC)を含めた抗凝固薬に関する追補2017
- 2) 非心臓手術における合併心疾患の評価と管理に関するガイドライン(2022年改訂版)
- 3) JCSガイドラインフォーカスアップデート版 冠動脈疾患患者における抗血栓療法ガイドライン(2020年版)
- 4) 添付文書、インタビューフォーム
- 5) メーカー確認

薬剤分類	販売名	一般名	術前休薬期間の目安
骨粗鬆症治療薬 (選択的エストロゲンモジュレーター)	エビスタ錠	ラロキシフェン塩酸塩	3日前 ⁴⁾
	ビビアント錠	バゼドキシフェン酢酸塩	3日前 ⁵⁾
低用量経口避妊薬 月経困難症治療薬	アンジュ、トリキュラー、シンフェーズ、 ファボワール、マーベロン、ラベル フィーユ、ヤーズ、ヤーズフレックス、ド ロエチ、フリウェル、ルナベル、ジェミー ナ、プラノバールなど	エストロゲン+プロゲ ステロン製剤	原則28日前~術後14日間 ^{4,6)} (45分を超える手術、術後に不動 を伴う手術) ⁶⁾
女性ホルモン関連製剤	プレマリン、エストリール、ジュリナ	経口エストロゲン製剤	慎重投与のため血栓リスクに応じて 上記期間を目安に休薬を検討 ⁴⁾ (ヒスロHは術後1週以内禁忌)
	エフメノ、ヒスロン、プロベラ	経口プロゲステロン製剤	

4) 添付文書、インタビューフォーム 5) メーカー確認 6) OC・LEPガイドライン(2020年版)

薬剤分類	休止	
糖尿病薬	SU剤	1~2日前
	ビッグアナイド薬	2日前、ヨード造影剤に関しては付録5参照
	SGLT2阻害薬	絶食中は休止
	GLP-1、GIP/GLP-1受容体作動薬	絶食中は休止
	上記以外の糖尿病薬	絶食中は休止
ステロイド製剤	プレドニゾロン換算5mg/日未満or3週 未満	常用量を継続
	プレドニゾロン換算5mg/日以上で3週 以上	休止は不可 ストレスドーズは付録4参照

〔付録1〕

未分画ヘパリン(当院:ヘパリンナトリウム注)持続静注用の用量調節表	
APTT(対照値との比較)	用量の変更
<35秒(<1.2倍)	80単位/kgポーラス、4単位/kg/時間 増量
35~45秒(1.2~1.5倍)	40単位/kgポーラス、2単位/kg/時間 増量
46~70秒(1.5~2.3倍)	変更無し
71~90秒(2.3~3.0倍)	2単位/kg/時間 減量
>90秒(>3.0倍)	静注を1時間中止後、3単位/kg/時間(減量1~2時間後に再検)

(肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドラインより)

〔付録2〕

(ワーファリンからヘパリン、DOAC(リクシアナ、イグザレルト)への変更、復帰)
<p>1)ヘパリンへ変更; 4~5日前に入院。ヘパリン1~1.5万単位/100ccで4mL/hrで点滴。 手術数日前APTT40~50と当日朝ヘパリン停止後3時間でINR<1.2確認。 少なくとも手術入室前4時間前までにヘパリン中止、または直前にプロタミンでヘパリン効果を中和。 手術・止血確認後5~12時間でヘパリン再開(手術経過や術後の状態により主治医が決定する)。 #ヘパリン離脱では、ワーファリンは常用量で再開し1~2日重ねて、INR以上1.6となればヘパリンOFFへ。</p> <p>2)DOAC(イグザレルトなど1日1回)へ変更; 外来で1週間以上前からワーファリン中止。INR<2となったらDOAC追加。 術前中止は上記表の休薬目安に準ずる。止血確認後12~24時間でDOAC再開。 #ワーファリンに戻す場合;1週間以上経過してからワーファリン常用量を重ねて投与しINR>1.6でDOAC中止。</p>

(院内規約より)

〔付録3〕

サプリメント・健康食品の中止期間について
一律、サプリメント・健康食品をお飲みの患者に対しては可能であれば1週間前(確認の時点で1週間無い場合は可能な日数)から中止。(サプリメント、健康食品は無数にあり、成分の含有量もまちまちで表記がないものも多く、中止対象食品を決めるのは困難なため)但し、ローヤルゼリー、プロポリスは2週間前からとする。

(院内規約より)

〔付録4〕

ステロイド製剤のストレスドーズ	
手術侵襲	ストレス時の追加量
小手術(鼠径ヘルニア手術など)	朝の内服を継続、追加投与は不要
中等度手術(下肢血行再建術、人工関節置換術など)	朝の内服を継続、ヒドロコルチゾン術直前に50mg、その後8時間ごとに25mgを24時間後まで投与
大手術(食道切除、心臓手術など)	朝の内服を継続、ヒドロコルチゾン術直前に100mg、その後8時間ごとに50mgを24時間後まで、翌日以降は通常量になるまで日々投与量を半減していく

Hamarahian AH, et al: the management of the surgical patient taking glucocorticoids. In: Martin KA, et al eds, UpToDate. (accessed 2017 July 02)より

〔付録5〕

ヨード造影剤使用時のeGFR値の基準およびビグアナイド系糖尿病薬の服用について				
代表的ビグアナイド系糖尿病薬	eGFR値	30以上	30未満	透析患者
メトホルミン、メトグルコ、グリコラン、エクメット配合、イニシク配合、メタクト配合、メアナ配合、プロホルミン、ジベトス	通常患者	造影可	原則施行しない	造影可
	ビグアナイド系糖尿病薬服用患者	造影可 (可能であれば検査日及び前後2日間休薬)	造影剤禁忌(内服も禁忌)	

- ・eGFRの値(当院の採血結果)は3ヶ月以内の結果を使用します。
 - ・ガドリウム造影剤(MRI用造影剤)を投与する場合は、ビグアナイド系糖尿病薬服用に関しては継続可(内服制限無し)。
- eGFR30未満は透析患者含めて禁忌。